

煌きを活ける。

煌

煌【きらめ・き】キラメキ きらめくの名詞形。

きらめくこと。きらきびすること。美しく光り輝くこと。新六帖・一・ほし「人をわく(る)心とはみし大空を、星のきらめきことよけれど也」

もてなすこと。盛装すること。歓待すること。今物語「人をはしらせて住のえ殿など掃除せさせよといひやりたりけるに、飾りのきらめきに、年頃然るべき人々の書置れたる歌ども柱・なげし妻戸にありけるを皆削り捨てけり」めのとのさうし「はじめはちとひきつくるひ、いしやうなどを改めて・・・御あひしらひ候へ、名目にだにも、はじめきらめきと申すことにて候・・・はじめは執し、もてなしものにて候、よくよくはじめをちと御たしなみ候へし」



日本古流「通信」8・9月合併号

ZETTONO

- 2 第19回日本古流いけばな展
- 13 東京会 野外研究会
- 14 『創流百周年記念花展』追加募集のお知らせ
- 15 第28回日本古流夏期講座
- 20 いけばな展のご案内等

98 初夏 - 花悠悠 第19回日本古流いけばな展

[会期] 1998年6月5日(金)～7日(日)

[会場] 新宿西口・野村ビル・地下1階「野村ホール」

主催 = 日本古流幹部会・家元 角田一忠

「創流百周年記念展」へ意欲

来年2月開催の創流百周年記念展を視野に、第19回日本古流いけばな展が開催されました。今展は、出品者70名、作品数63作が展示されました。今回の構成の特徴は、家元、副家元作品を中心に、白和紙をバックにした格花展示、家元顧問の先生方の大作に加え、山梨支部から参加の桜の古木(樹齢100年)を使った超大作が目を引きました。会場中央の合作を挟み、舞台上と台席に活けられた小品花に季節の息吹を感じられました。新宿京王プラザホテルでの記念展に向けて、程良い緊張感を持ち、趣旨である「煌めきを活ける」に早くも意欲を掻き立てられた花展でした。



会場風景



角田一忠
エンコウスギ



細田一弘
ハラン



石井一玲
テツバ、サンキライ、グロリオサ、
カサブランカ

柴崎一仁
ギボウシ、タンチョウアリューム



小林一苗
レンギョ、アジサイ、テッセン



尾崎一佳
レンギョ、斑入ギボウシ、
スカビアピンクジョイ





坂本一正
カラマツ、テッセン



清水一幸・武本一忍・伊藤一桜
銘「百の山脈」
桜古木、サクラランボ

神山一蒼
アイビー、アンスリューム



神山一蒼



志賀一然
斑入アオキ、カスミソウ、
古木

天野一教
ギガンジュウム、テンモンドウ、
カスミソウ、シロヌリツル





椎名一君・三須一壮
ヒイラギナンテン

岡野一秀
ユキヤナギ



羽鳥一翠
ナツハゼ



谷 一栄
エンコウスギ



富塚一京
レンギョ、ヒ
メユリ



近藤一栄
フトイ、テッセン、アスパラ
ガス、シュベリチィ



萩原一栄
晒テツバ、ヒマワリ、
ヘアグラス

大谷一訓
ナルコユリ、アスチルベ

本領一領
ドウダンツツジ、スモークツ
リー、ブルーファンタジア、
スカイタワー



保田一伯
アロエ、ユリ、アンス
リューム、ホサキナナ
カマド





森 一麗
フトイ、ハナショウブ



井上一恒
クジャクヒバ



入角一栄
ナツハゼ、トルコキキョウ

佐藤一瑞
サンキライ、アトランチア



中井一悦
ミオウヤナギ





小川一芳・萩元一純
テンギョ、イネのナエ



石川一匡
ヘリコニア、スター
チス、キンシバイ



金子一喜・肥沼一華・小
泉一巧
ニューサイラン、スー
パーレディ、スーパーロ
ーズ
桜田一敬
カエデ、アンスリュー
ム、シダレクワ



萩原一牧
ストレリチア、ナルコウ
リ、アサリハラン



野原一訓
ヒマワリ、スターチス、
キゾメユキヤナギ



関根一弘
レンギョ



柳 一修
イワツツジ



山口一敬
スモークツリー



松崎一弘
キンマサキ



高橋一誠
ハラン



進藤一信
キンマサキ



岩村一静
テッセン、アリユウ
ム、ナルコユリ



内山一貴
テッセン、シラカバ



関口一嘉
テッセン、シラカバ、ナデシコ



山上一幸
テッセン、晒ヤナギズル

坂本一祥
ヤツデ、デンドロビウム



下田一調
カラー、スモークツリー





片桐一彰
カラー、アルケミラモリス、アンス
リューム



榎本一幸・三角一協
ニューサイラン、スカシユリ、インカ
ナチース、スモークツリー



野田一栄
アイビー、スカシユリ、
ベアグラス、オトメユリ

高橋一麗
チャクショクドウダ
ン、カスミソウ、ス
パーレディー、ヒマワリ



田中一敬
ゴールドスチック、ゴテチア、ツルキキョウ



長嶋一京
晒ミツマタ、カラタチ、コチョウラン、
グロリオサ、ユウラクツ、ツジ、ソリ
ダコ、キバナコスモス、カーネーション、
スーパーレヂィ、ベニバナ



伊藤一仙
アイビー、ダムサン、トルコキキョー



佐藤一薫
アイビー、ヒマワリ、スモークツリー、ラグラス



伊藤一淑
アイビー、枯テツバ、キバナカイウ、ワレモッコ

関一優
ドラセナコンシネンシス、ユリ、斑入ギボウシ



荒木一洲（副家元）
ナツハゼ、ミオウヤナギ、キバナカイウ



野中一嘉
アイビー、オリズルラン、エレルムス、アロエ

東京会 野外研究会報告「高峯高原・湯ノ丸高原で自然観察を楽しむ」

6月21日(第3日曜日)副家元先生、家元顧問・坂本一正先生のご参加をいただき、総勢30名、定刻より早い8時に新宿西口を出発、途中渋滞もなく最初の目的地、湯の丸高原に到着。ツツジ平目指して歩き始めました。急な直線の登り坂を息を切らせながら登り少し先へ進むと、そこそこに鮮やかな濃いオレンジ色のレンゲツツジが咲き競っていました。湯ノ丸高原にはツツジ平を中心に60万本ものレンゲツツジがあるとのこと、そのほんの一部でしたが、思い思いの美しさをカメラに納め、同じ坂道を下ってバスに戻り、林道を次の目的地、池の平に向かいました。



ご参加の皆様

池ノ平湿原は三方ヶ峰の古い火口に水が溜まり、何百万年もかかってできた湿原とのこと。標高は2000メートルですが厳しい気象条件下にあるため3000メートル級の高い山でしか見られない植物が見られるとのこと、期待しつつバスを降り、まず、お弁当をいただいた後、コースの説明をうけ出発。まず湿原の木道を美しい紫色のアヤメを見ながら先へ、登り勾配を進むと道の左右に淡いピンクの花を付けたシャクナゲが多く見ら

れ、その間にあやめ、野アザミ、ヤマオダマキ、カラマツ草その他名を知らぬ高山植物が楚々とした花を咲かせ、見落としてしまいそうな小さなコケモモも蕾をたくさん付けており、そして風雪に耐え見事な造形美を造り出しているカラマツの枯木。新緑のカラマツなどの美しさに感動しながら先へ進むと、コマクサ園があり、高山植物の女王といわれるコマクサが、他の植物を寄せ付けぬ厳しいガレ場に群落をつくって、濃い紅色の花を咲かせておりました。

松田修先生の著書「野の花、山の花」に、コマクサはケシ科の花で高山に咲いているので訪れる昆虫もなく、受粉は専ら風によって自分のを其の柱頭に受けるという。花としては寂しい花で「言はざりし苦しきことを持つ故に心ぞ必む美しき花」(佐藤みす)と言った姿であるといえます。本当に可憐さもひとしおです。

その後、コース最後の雲上の丘に到着、ここはまさに360度のパノラマ、遠く雲海に浮かぶ北アルプスの山々がブルーの濃淡で浮かんでいます。なだらかな八ヶ岳、残雪の美しい穂高連峰、厳しい姿の槍ヶ岳等、その展望のすばらしさに疲れもすっかり忘れさりました。ここで全員で記念撮影を済ませ、緩やかな道を下り、全員無事バスへ、雲行きが怪しくなってきたなか帰路につきましたが、渋滞に巻き込まれたりして新宿には予定より遅れて8時30分に到着。お世話になった皆様に感謝しつつそれぞれ小雨降る中を帰路につきました。

副会長 鈴木一壮

『創流百周年記念花展』追加募集のお知らせ

この度は、創流百周年記念花展のお申し込みをいただきましてありがとうございました。1次募集は7月末日で締め切らせて頂きましたが、会員の皆様のご要望にて、さらに多くの方に参加いただきけるように追加募集をすることとなりました。この機会に一人でも多くの方に申し込みをいただきますようお願いいたします。

募集要項

[主 催] 三世 角田一忠

協賛 日本古流東京会・山梨会・静岡支部

[会 期] 1999年2月23日(火)～24日(水)の2日間

[開催時間]午前10時～午後8時(24日は午後7時閉場です)

[会 場] 新宿 京王プラザホテル「エミネンスホール」5階
会場面積は715平方メートルで、野村ホールの約3倍の広さです。

[出品者] 300名

[参加費] 26,000円(写真代を含みます)
全出品者に記念作品集を後日お渡しします。

[いけ込] 2月22日(月)午後3時～午後9時

[あげ花] 2月24日(水)午後7時～午後8時

[申込み] 日本古流に在籍のある方。社中における申し込み人数の制限はありません。

[花 席] 出品数がそろいましたら、席割と花席の大きさ等をお知らせいたします。

*参加費納入につきましては、本部より請求書と納付書を後日発送いたします。

*詳細については、後日出品者にお知らせいたします。

*花展に関するお問い合わせは、家元本部までご連絡下さい。(電話&FAX03-3811-1713)

[第2次締切り] 9月30日



京王プラザホテル



第 28 回夏季講座「日本古流の花型（創流から現在まで）」

第 28 回日本古流夏季講座が、8 月 23 日（日）野口英世記念会館ホールで開催されました。実技は家元、解説は副家元にて行われました。本部主催・各支部後援

第 1 部「巻物伝書に見る基本花型」

解説：さて、今回の表題は、「日本古流の花型（創流から現代まで）」ということですが、今お稽古をしている花型が巻物にはどの様に表現されているのか検証をしていきます。巻物にはいろいろありますが、ここでは「日本古流活花大意」を参考にします。

抑も、活花とは、植物の枝条もしくは、葉茎をもって、花形の一個体を形ち作るに、五性の理に則るもの、之即ち活花の法たり。而して、花形に陰陽を備え、花葉に対する三才に擬するあり、五行に擬するあり、之を応用するものいわゆる活花の本領とす。花形に三枝を以てかたどるに、五行を正しく備え、陰陽を以て律するものなり。三才の花形を作るに、天を司る枝を真と称し、人を司る枝を体と唱う。地を司る枝を留めと言う。又五枝を以て五行に擬い活花とするものは真を骨髓となし、真と体との間に添枝を置き之を内添えと名付けて陽に作るなり。又真と内添との裏即ち真と相對せしめて猶一枚を置き之を受けと名付けて陰に作るものなり。

流祖は心の中にある何かを形に現そうとしたのではないか。例として、岡本太郎氏が「芸術は爆発だ」と彫刻を通して心の中をあらわし、ピカソ氏が絵筆をつつかて顕わしたように流祖は植物を手段として、訴えたかったのではないかと思えます。それは人生論であったかもしれませんが、宇宙論であったかもしれません。「何か」は計りしれませんが、三才や五行、陰陽を媒体として現しているように思えます。

以下に関連知識として三才、五行、陰陽説の項目を「大辞典」から引用します。

三才

才は、裁。万物を裁制する義。(1)天と地と人との総称(2)宇宙間の万物 天・地・人:(1)天と地と人と。(2)宇宙間の万物。(3)三つの物の順位を現す称呼。

五行

(1)支那古代の宇宙生成論に於いて、万物を構成する五元素を木・火・土・金・水の五種とし、総称して五行と呼ぶ。行とは「めぐる」と言うことで、元素と言うよりもむしろ活力を有する物質である。五行は、天に於いては、木星・火星・土星・金星・水星の五つの惑星として現れ、常に天を運行し、地に於いては、木・火・土・金・水として現れ、それらが複雑に組み合わせられて万物となっている。天における五行と地における五行とは、それぞれ密接な連絡を保ち、天の現象は、常に地の現象に影響する。人の精神も肉体もまた此の五行の結合によってできて

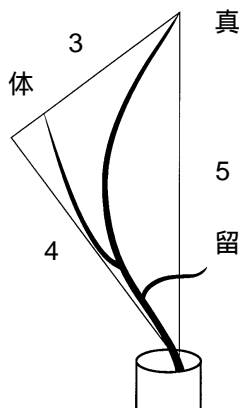
いるもので、天地とお互いに影響し合う。以上の理論を指して、五行説と称する。此の理論は、支那占星術の根本原理であり、また哲学にもなっている。(古代の哲学は、物理学と分離していなかった。)五行説は、支那の古典の最も古いところから現れているものであるが、其の成立したのは、五個の惑星の観測の行われたときであろうと思われる。此の観測の初めて行われたときは、その実、戦国時代の初め頃即ち西紀前四世紀頃であると推定される。歴史上から考えても、五行説を盛んに宣伝した学者は、戦国時代の半ば頃が最初の人と見てよい。此の説は、儒教の方にも取り入れられ、漢代の儒学に盛んに応用された。

陰陽説

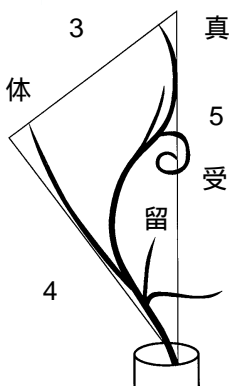
支那の易学の語 大極より分かれた相反する二つの気。二者交感して宇宙の万物を作成す。此の二元説は支那における諸思想に影響し、総て積極を陽、消極を陰とすることとなった。

巻物では、三才において、天と地と人の三つの気を、天を真と称し、地を留と称し、人を体としてます。三つの才(働き)によって一つの花型をつくり、三つの働きによって宇宙が成り立つように花型も成り立っています。(右図1)

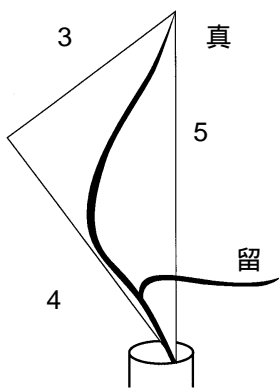
五行については、五つの要素を生花に取り入れたのが五行型です。役枝は次のように配当します 真は燃えるような火性(骨髓)を、体は樹木の木性をあらわし、受けは丸くつくて凝縮性のある金性(陰)を、留流しは水性を。そして留は土性を現します。(下図2)



1. 三才型



2. 五行型



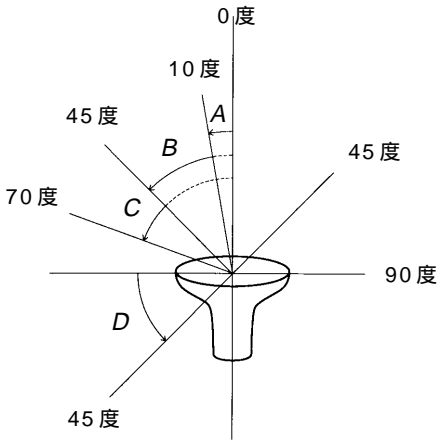
3. 陰陽型

陰陽は、天が陽で地が陰と考えられますから、役枝の真と留めがあれば花型が成立します。そこで、体の格のない花型を陰陽型とします。(左図3)

第2部「生花から自由花へ」

「生花」の理論に基づき、格を構えた花に対し、活ける楽しさを先行させようとしたのが盛り花ではないかと思われます。「盛り花」は活ける人の個性を自由に発揮して創作をする花です。形式にとらわれないで花形を定めないので本来の姿ですが、やみくもに活けても自分らしさを発揮する事はできません。早く自由に花を楽しみたいと思っている人にとって花型は窮屈に感じられるかもしれませんが、いけばなの幅を広げ、思いもなかつた自分を発見するためにも、ここで花型について源流を参考にしながら見ていきたいと思ひます。

「三才型に添えの花を加える」と「陰陽型に添えの花を加える」のところを実技いたします。今の「自由花」という概念からしますと、窮屈なところがあります。「日本古流いけばな」教書を出版したときに、「盛り花」の花型を習得しやすいように真の傾斜によって、立真型・斜真型・横真型・垂真型の4つの型に決めました。「折り入れ」にも真の傾斜によって、同様に4つの型があります。「造形花型」では、線・面・マスの3要素から花型が構成されます。



真の傾斜角度と基本花型

A：立真型	10度まで
B：斜真型	45度まで
C：横真型	70度まで
D：垂真型	下方45度まで

ここでは立真型についてお話をします。花材は七月の昇格試験と同じものです。

作品(1) 花型：立真型(逆勝手) 花材：岩ナンテン、中ギク、小ギク

岩ナンテンは常緑低木で花より葉の美しさを花材としてよく使います。岩ナンテンの葉は張りがありますので、整理の仕方によって表情は変わってきます。キクは、いつ見ても気品のある花です。水切りをして準備をします。

A：役枝を準備します。

まず役枝の真、副、留の3本を花材の中から選びます。

真の働き： 構成の中心になる枝です。作品の中心に表が向くように挿します。立真型は真が力強く立ち上がった姿にすることが大切です。真の長さは、花器の口径に高さを加えた長さの2倍前後にします。

副の働き： 真と留の連携を取りながら、奥行きを出す役枝として重要です。副の長さは、真の5分の3にします。

留の働き： 真の働きに対応して花型全体のバランスを取る重要な役枝です。前の幅を出すような枝を選びます。留の長さは、真の5分の2にします。

B：真から留めます。

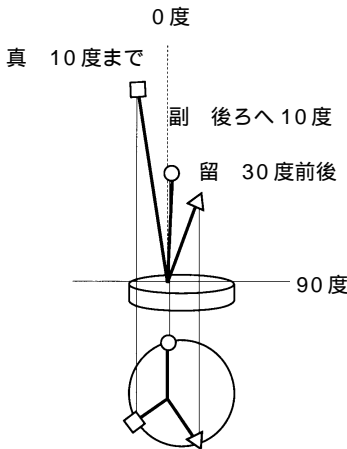
真の枝が右枝(逆勝手)か、左枝(本勝手)かよく見極めて決めます。剣山の右中心に挿しますが、真の角度は枝先が(10度位)右肩の方向に少し前に倒すようにします。逆に後ろに反り返りますと葉裏が見えるからです。美しい線が出る向きをしっかりと捜し、見つけてから挿します。

C：副を留めます。

副は奥行きを出す枝ですので根元は剣山の一番奥にします。後ろに10度位倒して構えて、きれいな線を見つけだし、真と同様にしっかりと留めます。

D：留を挿します。

留は前の幅を出す役枝です。根元を剣山の左手前において、角度は30度前後にし、左肩の方向に倒して構えてから、きれいな線を見つけます。岩ナンテンなので煩雑な脇枝はありませんが、強い張りのある葉なので内側になる葉は少し整理をすると良いです。



立真型ふかん図

E：添枝を留めます。

3本の役枝の作った骨格にふくらみを付けるように添枝入れていきます。まず、中心をまとめるように真の向かい合いに1番長い添枝(真の長さの2分の1)を挿します。役枝とは逆に長、中、短と挿します。さらに根元を引き締めるように小菊を入れます。手前の小菊は花と花器が一体になるよう注意をして入れます。

最後に全体のバランスを見ながら、もう一度しっかりと観察します。ポイントである3本の役枝がはっきりしているか、立真型の特徴である真の線が力強く立ち上がっているかどうかチェックします。真と留との間の表情が乏しいようなので4本目の岩ナンテンを低く挿しました。

作品(2) 花形：立真型(本勝手) 花材：ドウダンツツジ、リアトリス、小菊

A：役枝を準備します。

役枝を3本とも同じ花材にしない場合です。真にドウダンツツジを使うこともありますが、こ

こではリアトリスを使います。副と留はドウダンツツジで表現します。

作品(3) 花形：立真型(逆勝手) 花材 レンギョ、ユリ 小菊

A：役枝を準備します。

まず役枝の真、副、留の3本を花材の中から選びます。

B：真を挿します。

此の真は少し優雅で優しい雰囲気を持たせます。ご覧になっておわかりのように生花の陰陽型の真の影響を色濃く残しています。真の枝表が作品の内側に向くようにしますが、此の真は枝先が振り返って初めて枝表が作品の内側に向くようになります。

三作の立真型花型を見てきましたが、基本花型は迷ったときに振り返りたいです。

作品(4) 花形：斜真型(本勝手) 花材 レンギョ、ユリ、小菊

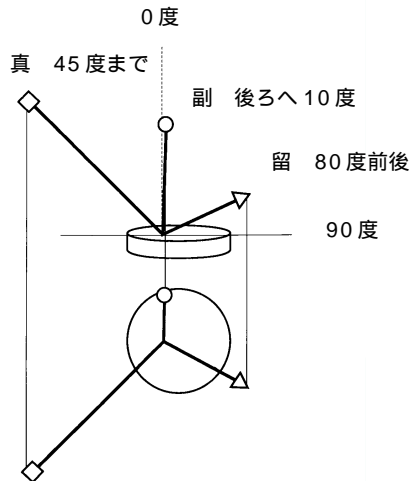
真の働き 真の角度が45度位まで傾斜する形です。斜真型特有の左右に広がりのある空間と、副の奥行きとで立体感を作り出すのが特徴です。真の表が作品の中央に向くようにします。根元を剣山の左中央に置いて左肩の方向に45度倒してから線の美しいところを捉えて、しっかり留めます。左枝ですので本勝手の真になります。作品(3)の場合は同じ枝ですが、右枝(逆勝手)の立真型になりました。

副の働き 奥行きを出す役枝ですので後10度位に倒してから、真との間に作り出す空間のバランスを見ながら向きを決めます。長さは真の5分の3ですが実際より長く見えないかどうか、もう一度確認をして、目で調整をします。

留の働き 前の幅を出す役枝です。右肩の方向に80度位倒して真との調和を計ります。

最後に全体のバランスをよくみます。斜真型特有の空間を生み出す真の角度をきちんと取ることで、やわらかな動きや情緒を引きだします。

この夏季講座が皆様のお役に少しでも立てた事を信じて終わりいたします。



斜真型ふかん図

いけばな展のご案内

東京会靖国神社献花展

〔会期〕九月一日(火)～三日(木)

〔会場〕東京九段 靖国神社常設花席

*本流会員でしたらどなたでも出品できます。

山梨会いけばな展

〔会期〕九月十一日(土)～十三日(日)

〔会場〕甲府ステーションビル・エクラン4Fプラザ

ザ

*創流百周年記念展に向けての花展です。支部会員100名が出品予定です。

神奈川・武相華道展(諸流)

〔会期〕九月九日(水)～十四日(月)

〔会場〕町田 小田急百貨店

*本流より、保田一伯、宮崎友の先生方が出品いたします。

第五一回山梨県芸術祭華道展(諸流)

〔会期〕十月八日(木)～十三日(火)

〔会場〕山梨県民会館地下展示場

*通し 天野一教

*第一次八日(木)～九日(金)

山口一麗、小俣一賀、古屋一緑

*第二次十日(土)～十一日(日)

島田一源、武井一翠、鶴田宇

*第三次十二日(日)～十三日(火)

古屋一清、小川一源、高橋一寛

第四十九回文京区華道展(諸流)

〔会期〕十月十四日(水)～十九日(月)

一次～三次

〔会場〕文京区シビックセンター・アートサロン

(地下鉄丸の内線、後菜園駅下車1分)

*本流より、第二次十六日(金)～十七日(土) 家元、副家元、佐藤一薫、平林一啓、秋葉一愛の諸

先生方が出品いたします。

九月の行事

静岡支部研究会

〔日時〕九月六日(日)、午後一時～五時

〔会場〕静岡商工会議所3F

*会頭、補佐、師範研究会です

東京会正教、補佐研究会

〔日時〕九月十三日(日)、午前十時～午後十二時

三〇分

〔会場〕野口英世記念会館(JR千駄ヶ谷駅下車徒歩7分)

幹部研究会(会頭以上)

〔日時〕九月十三日(日)、午後一時三〇分～午後

四時

〔会場〕野口英世記念会館(JR千駄ヶ谷駅下車徒歩7分)

*自由花研究会です

山梨支部研究会

〔日時〕九月二十八日(日)

〔会場〕ケンブラザ安江(甲府市朝日5丁目)

十月の行事

東京会正教、補佐研究会

〔日時〕十月十一日(日)、午前十時～午後十二時

三〇分

〔会場〕野口英世記念会館(JR千駄ヶ谷駅下車徒歩7分)

幹部研究会(会頭以上)

〔日時〕十月十一日(日)、午後一時三〇分～午後

四時

〔会場〕野口英世記念会館(JR千駄ヶ谷駅下車徒歩7分)

*自由花研究会です

山梨会秋季昇格試験及び授与式
〔日時〕十月二十五日(第四日曜日)、午後十時より昇格試験、午後一時より授与式
〔会場〕ケンブラザ安江(甲府市朝日5丁目)
*許状申請は、九月三十日までに本部必着のこと。

本年秋季昇格試験及び授与式

昇格試験十一月一日(第一日曜日)

〔受験時間〕

*師範 午前十時三〇分～十一時三〇分

*上席 午前十時三〇分～十二時

*皆伝・奥伝 午後一時～二時

上席試験(補佐、会頭)は、各支部希望者を含みます。受付は試験開始三〇分前より開始します。

授与式は 十一月二十九日(第五日曜日)、午後一時～三時

〔会場〕野口英世記念会館(JR千駄ヶ谷駅下車徒歩7分)

編集後記

今回で二度目の通信特別号となりましたが、いかがでしたでしょうか。この度は、私連(荒木健一郎)家族もそろそろ引越しも考えはじめその合間の編集となりました。次回は百周年記念華展の頃となりそうですが、すばらしい華展に、大成功させる為にもみなさんのお力が必要となってまいります。また、通信特別号も、さらにより良いものになるよう努力し、みなさまと一緒に作る通信にして参りたいと思っておりますので、みなさんのお声をお聞かせ下さいませ。まだまだ暑い日が続きますが体に気をつけて参りましょう。

日本古流のホームページが変わりました。

<http://www.nihonkoryu.org/>



日本古流